

アルジェリア政治・経済月例報告  
(2018年8月)

平成30年9月  
在アルジェリア日本国大使館

1 内政

- 6日、ウーヤヒヤ RND 党首（首相）は、ゲールT A J（アルジェリアの希望連合）党首と会談後、同党首とともに記者会見し、当地域の不安定さにかんがみ、アルジェリアへの奉仕と安定への継続のため、ブーテフリカ大統領5選を支持する旨表明した。
- 10日、「ビナー運動」のアブデルカーデル・ベングリナ代表（1997～99年、観光・手工業大臣）は、アリー・ベンfris「自由のための先駆者達」党首（元首相）と会談し、国内諸派間の対話の強化のため、5月に同代表が立ち上げた「全員のためのアルジェリア」イニシアチブについて説明した。
- 16日、ウーヤヒヤ RND 党首（首相）は、テベッサ県の投資関連汚職で収賄したマリーク・ブジャウハル国民評議会議員を同党から除名した。本件は、2か月前の同県ラアス・ル・マー地区長の同党からの除名に続くもの。
- 23日付報道によると、ジトウニ・ムジャヒディン相はブーテフリカ大統領声明をムジャーヒド記念日（20日）に際するテベッサ県での式典にて代読し、国境付近における隣国の危機は、当国の安定を保障するために強い人民戦線を不可欠のものとしている旨述べた。
- 26日、ハズベラーウィ保健・人口・医療改革相は、ブリダ県の病院を訪問し、コレラの疑いは147件に達し、その内49件について感染が確認されたと公表した。
- 27日、ブーテフリカ大統領、定期健康診断のためジュネーブへ出発。9月1日、帰国した。
- 30日付報道によると、ムクリ「平和のための社会運動」（MSP）党首が同党首として2期目の当選を決めた後に立ち上げた、国民和解イニシアチブは、初期において他政党党首から賛意をえられていないが、MSPは第二期の取組として彼ら以外の著名人へ理解を求めていく模様。
- 30日付報道によると、ウルド・アッベス FLN 事務総長は、祖国防衛人民戦線に19の政党を含む40の組織・団体が加入した旨明らかにし、同戦線は、ブーテフリカ大統領がムジャーヒド記念日に発した声明に応えるものであり、国内の団結を強化するもので、かつての解放革命時のものとは異なり、その長や指導者はなく、いかなる団体にも開かれたものである旨、また、同大統領の5選を支持する旨、スキクダの文化宮殿におけるアルジェリア女性国家連合夏

季大会にて述べた。

## 2 外交

- 9日、外務省シェリフ報道官は、8日に安保理で行われたケーラー西サハラ担当国連特使による最近の地域訪問に係る説明を前向きなものとして評価する、同説明は全ての安保理メンバーから好意的に受け止められた旨述べた
- 4日から開催された第9回ポリサリオ戦線・西サハラ「国」夏季大会（於ブーメルデス）が15日に閉幕。ムハンマド・エルワリー・アキーク西サハラ「首相」は、アルジェリアの政治家も参加した大会において、公正が求められる西サハラ人の課題に対するアルジェリアの原則的な立場を称賛し、ブーテフリカ大統領への感謝状をウルドゥ・アッベスFLN事務総長に手交した。
- 19日、ベドゥイ内務・地方自治・国土整備相は、1975年以降封鎖されていたアルジェリア＝モーリタニア間陸上国境の開通式に、モーリタニアのウルド＝アブダッラ内務・地方分権相とともに出席した。
- 23日、アルジェリア外務省は、リビア首都トリポリ東のズレイテン検問所に対するテロ攻撃で治安関係者が死傷したことに関し、テロ攻撃を非難し、犠牲者に哀悼の意を表明した。
- 26日、メサヘル外相、ジンバブエのムナンガグワ大統領再任式典に際し、ブーテフリカ大統領親書を「ム」大統領に手交した。
- 27日、ブハジャ国民議会議長及びベッタ議会関係相、来訪したマスウヤ・マラウィ国民議会議長とそれぞれ会談した。
- 27日、アイサ宗教・ワクフ相は、来訪した米 국무省ネイサン・セールス（Nathan Sales）対テロ調整官と会談し、テロ・過激主義対策について協議した。
- 28日からメサヘル外相は南アを公式訪問。29日、シスル国際関係・協力相と会談し、アフリカ大陸の紛争問題について協議し、パレスチナ問題、西サハラ問題に対する支援を再確認し、会談後、共同声明を発表した。30日、ワマポーザ大統領を表敬し、ブーテフリカ大統領親書を手交した。

## 3 治安

- 1日、国境出入国管理所で税関が乗用車に隠された200万ユーロを発見し押収した。運転者はチュニジア入りを目指していたという。エル・ハビリ警察庁長官は本件を治安諸機関の間の協力の成果として歓迎の意を表明し、治安諸機関は外貨不法輸出への対策として空・海・陸の国境で検査を厳格化する。
- 11日付報道によると、昨年夏期のサッカー競技場における暴力事件で検挙された者のうち麻薬、刃物所持及び暴力行為により逮捕された者の数は1,000

人を超え、負傷者300人以上にのぼり、物的にも甚大な被害を与えた。これに鑑み警察は本年夏期の競技場安全のためスポーツクラブや応援団向けに予防キャンペーンを実施した。

●12日、ブーメルデス県の海水浴場で行楽客（28歳）が6人の不良グループにより刺殺された。同不良グループが騒いでいたので被害者が「行楽客には家族連れもいるのだから迷惑をかけてはいけない」と注意したことから口論となり被害者は数箇所を刺され、病院に搬送先されるも搬送先で死亡。

被疑者の不良グループ6人のうち5人を逮捕、残る1人（前科者）は逃亡中。地元紙は、今回の事件について行楽客の安全が問われる由々しき事件であり、また現場一帯では麻薬が堂々と売られるなど危険な状況にあり、当局は市民に再三通告されながら措置を講じてこなかったことを批判している。

●15日付報道によると、パーキンガー（路上で駐車料金を強要する者を指す）がジジェル県、ブリダ県等で横行している。内務省の禁止命令にも関わらず路上の支配者として振る舞い1台につき100DAから200DAを巻き上げる。内務省は市民は脅迫に屈しないようSNS上で呼びかけている。

#### 4 経済

●1日、産業鉱業省は2017年に国家投資開発庁（ANDI）によって登録された国内及び外国企業の投資についての報告書を公表。投資の総件数は5057件で、前年と比べ29%減少したものの、投資額は4%増の1兆9050億ディナール（約171億6千万ドル）。また、以上の投資により16万7618名分の雇用が創出された。

●1日、ラファージュホルシム・アルジェリア社がオラン港から4万トンのクリンカーの輸出オペレーションを実行。

●4日、関税庁が、2018年上半期の普通乗用車のCKDシステムによる組立て事業向け構成パーツの輸入高が前年同期比で86.73%増の13億2000万ドルに上ったことを発表。一方、旅客・貨物車両の構成パーツの輸入高は0.73%減の2億6千552万ドル。その他の交換部品については前年同期の1億9113万ドルから1億7053万ドルに減少。

●7日、各紙報道によると、2018年上半期の当国から伊への天然ガスの輸出量が、前年同期比で13.5%減少した。伊Eni社が公開した財務報告により判明。同報告書は減少の理由については言及していない。対伊の天然ガス輸出量が最も多いのは露で、2018年上半期は13億2900万立方メートルを輸出。当国はそれに次ぐ64億8000万立方メートル。かつて当国は伊にとって最大の天然ガス供給国で、伊の国内需要の32～37%のシェアを占めていた。

- 8日、当国と印の合弁企業、マヒンドラ社のアズアウ会長は、ティジウズ県の農業用トラクターの生産工場が最終準備段階にあることを発表。同会長によれば工場は年間3000台の生産能力を有する。
- 9日、アルジェリア航空は、アルジェとガボンのリーブルヴィル及びカメルーンのドゥアラを結ぶ便を、今年の12月からどちらも週3便就航させると発表。
- 12日、アルジェ郊外ルイバの工業地区にドライ・ポートが開設。ザアラーン公共事業・運輸相はこのドライ・ポートがアルジェ港の流通を緩和し、貿易の起爆剤となることを期待する旨発言。
- 13日、インターネット紙TSAが産業・鉱業省からの情報として、プジョー・シトロエンの自動車組立て工場の建設に関し、当初の予定地エル・ハムルから同じオラン県内のタフラウイに変更となった旨報道。工場の敷地面積は160ヘクタールとなる予定。
- 14日、エクスプレシオン紙等が、2017年にアルジェリア人・企業が仏において行った海外直接投資（FDI）の額が7億5400万ユーロで、国別の対仏投資額で第32位であったこと等を報道。当国から仏への投資は2012～2017年の5年間で、年平均29%ずつ増加している。一方、仏人・企業による対アルジェリアの海外直接投資は24億7000万ユーロで、2012～2017年の平均増加率は2%。
- 14日、英誌『エコノミスト』の調査部門エコノミスト・インテリジェンス・ユニットが、世界の主要都市の住みやすさランキング（The Global Liveability Index 2018）を発表。アルジェは昨年より2つ順位を上げたものの、調査対象の140都市中132位と今年もワースト10入り。特にインフラの評点が30.4/100と低い。なお、1位はウィーン、最下位はダマスカス。
- 16日、各紙報道によると、今年上半期のアルジェリアにおける自動車販売台数は25.1%増加し、中東・アフリカ地域で最大の増加率となった。以下2位がエジプトの12.1%、3位バーレーン4.5%、モロッコが4位で2.1%と続く。また、モロッコでは今年上半期の販売台数のうち約50%をルノー車が占めた。一方、チュニジアは上半期の販売台数が16.7%減と同地域内で最も大きく減少。
- 25日、楊当地中国大使は、中国企業が受注している大型公共事業プロジェクトの進捗状況について以下のとおり言及。チパザ県のエル・ハムダニア港（シエルシエル港）の建設計画はフィージビリティ調査が最終段階にあり本年中に着工できるだろうとの予測を表明。アルジェのグランド・モスクに関しては工事が急ピッチで進んでおり、本年末までに完成できるよう努める旨述べた。また、アルジェ空港の新国際ターミナルについては、既に工事は完了、現在は

試験段階にあり本年中に運用の準備が整うと確信しているとした。

●26日、国家統計局（ONS）は過去1年間の消費物価の平均上昇率（インフレ率）が4.8%であった旨発表。なお、月別では本年6月から7月にかけて平均1.9%低下しており、特に野菜や果実をはじめとする食料品の価格の低下が目立つ。一方で鶏肉の価格は3.9%上昇した。なお、2018年予算法では本年の年間平均インフレ率の予測を5.5%としている。

●31日、ソナトラック社のカドゥール総裁は、ボリビアの国営企業YPFとの炭化水素の探鉱及び開発における協力に関するMOUに署名。

## 5 日本との関係

●9日、今秋より日本に留学予定のABEイニシアティブ研修生2名が当館を表敬訪問。北川臨時代理大使から両名に対し、将来、日・アルジェリア間の架け橋となって活躍するよう期待する旨等激励の言葉を述べた。

### <アルジェリア要人の外国訪問>

日付	国	氏名・肩書き	目的
8月10～11日	チュニジア	エッダリア国民連帯・家族・女性相	第1回「女性の状況」マグレブ会合及び「地域の平和及び開発のための女性の状況の変化における問題点」マグレブ会議に出席
8月14～16日	インドネシア	グラマッラーイスラム高等評議会議長	第7回世界平和フォーラムに出席
8月16～17日	ケニア	フェラウン郵便・情報通信・技術・デジタル相	第5回AU遠隔通信全権委員会会議に出席
8月25～26日	ジンバブエ	メサヘル外相	ブーテフリカ大統領の代理としてムナンガワ大統領の就任式に出席
8月27～29日	カザフスタン	メデルシ憲法評議会議長	「憲法：法治国家、市民社会及び近代

			国家の価値の是認」をテーマとした国際会議に出席。ナザルバエフ大統領を表敬
8月28～29日	南ア	メサヘル外相	シスル外相と会談。ラマポーザ大統領を表敬
8月29日	スイス	エッダリア国民連帯・家族・女性相	障がい者の権利に関する国連人権理事会の会合に出席

<外国要人のアルジェリア訪問>

日付	国	氏名・肩書き	目的
8月27日	ベネズエラ	ゴメス副大統領	トランジットのためにアルジェ空港着。ウーヤヒヤ首相が応接。
8月28日	ベネズエラ	ゴメス副大統領	ウーヤヒヤ首相と会談

(了)